

1 漢字の読み 1

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 容易に解けない問題 (ようい)
- ② 機械を操作する (そうさ)
- ③ 自らを奮い立たせる (ふる)
- ④ 眺めがよい場所 (なが)
- ⑤ 家を留守にする (るす)
- ⑥ 船の模型を作る (もけい)
- ⑦ 自分の誤りに気づく (あやま)
- ⑧ 大きな問題を抱える (かか)
- ⑨ 友人をパーティーに招待する (しょうたい)
- ⑩ 働いた分の賃金をはらう (ちんぎん)

2

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 思い出を胸に刻みこむ (きぎ)
- ② 勢いよく駆けつけていく (か)

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ③ 激しい口調で話す (くちょう)
- ④ 長い年月を経る (へい)
- ⑤ 親善大使を派遣する (はけん)
- ⑥ 木々の緑が鮮やかだ (あざ)
- ⑦ 科学技術の進歩が著しい (いちじる)
- ⑧ 演奏会の余韻を楽しむ
調「著す」だとなんと読むか、調べてみよう。 (よいん)
- ⑨ 弱点を克服する (こくふく)
- ⑩ 指示がなくても積極的に行動する (しじ)
- ① 意見の相違を知ることが大切である (そうい)
- ② 校長先生が卒業証書を授与する (じゅよ)
- ③ ボールをたくみに操る (あやつ)
- ④ ボランティア活動への参加を募る (つの)
- ⑤ 友人に激励の言葉を贈る (げきれい)
- ⑥ 募金の趣旨に賛同する (しゅし)
- ⑦ 万々に備え、非常口を確認する (そな)
- ⑧ 新入生に入部を勧める (すす)
- ⑨ ドアにうっかり手を挟んだ (はさ)
- ⑩ 健康を顧みず、夜ふかしを続けるのはよくない (かえり)

1 漢字の読み 1

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

① 洞察力に優れている (どうさつ)

② 普遍的な心理 (ふへん)

意「すべてのものに共通すること。」

③ 慕情がつのる (ぼじょう)

意「心がひかれて後を追いたくなるような気持ち。」

④ 登録を抹消される (まっしょう)

⑤ 作品を網羅している (もうら)

意「もらすことなくすべてに及ぶこと。」

⑥ 富裕な人々 (ふゆう)

⑦ 抑圧された人々 (よくあつ)

⑧ 傑出した才能だ (けっしゅつ)

意「他からとびぬけてすぐれていること。」

⑨ 趣味は陶芸です (とうげい)

⑩ 仕事を円滑に進める (えんかつ)

2

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

① 風薫る五月 (かお)

② 病床につく (びょうじょう)

3

③ 排斥運動をする

(はいせき)

④ 稚拙な文章

(ちせつ)

⑤ 愛憎の念
意子供じみて下手なこと。

(あいぞう)

⑥ 仕事に没頭する

(ぼっとう)

⑦ 劣悪な環境

(れつあく)

⑧ 溪谷を歩く

(けいこく)

⑨ 全力疾走する

(しっそう)

⑩ 漆器を買いそろえる

(しっき)

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

① 濃淡がはっきりしている

(のうたん)

② 慶弔費がかかる

(けいちよう)

意吉事を祝うことと凶事を弔うこと。

③ 波紋がひろがる

(はもん)

④ 雷鳴がとどろく

(らいめい)

⑤ 納涼盆踊り大会

(のうりよう)

⑥ 侮辱を受ける

(ぶじよく)

⑦ 安泰な時代

(あんたい)

⑧ 威嚇射撃をする

(いかく)

⑨ 窮地に立つ

(きゆうち)

⑩ 歯並びを矯正する。

(きょうせい)

2 漢字の書き1

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① うちゅうを開發する (宇宙)
- ② 柱が家をささえる (支)
- ③ 上からあつりよくを加える (圧力)
- ④ 生まれ育ったこきょうに帰る (故郷)
- ⑤ ことわりの手紙を書く (断)
- ⑥ スライドをスクリーンにうつし出す (映)
- ⑦ 自分のせきにんを果たす (責任)
- ⑧ 食料品店をいとなむ (営)
- ⑨ ごみをすてないでください (捨)
- ⑩ ふくぎつな問題 (複雑)

2

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 宿題をすます (済)
- ② きびしい寒さ (厳)

- ③ おさな|い頃の思い出がよみがえってくる (幼)
- ④ 友のやさ|しさにふれ、感激した (優)
- ⑤ 勇気としんねん|をもって行動する (信念)
- ⑥ 試合が始まって三十分がけい|かした (経過)
- ⑦ 大会終了後、じゅんい|を発表する (順位)
- ⑧ 文化祭を成功にみちび|く (導)
- ⑨ 試合を前に、英気をやしな|う (養)
- ⑩ 練習方法をくふう|する (工夫)

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 生徒会役員の負担をけいげん|する (軽減)
- ② 山のいた|だきを目指して頑張って登った (頂)
- ③ 打球によって窓ガラスがわ|れた (割)
- ④ 生徒会長のこう|ほに選ばれる (候補)
- ⑤ コンクールでピアノのえん|そうをする (演奏)
- ⑥ ニュースは、どのけい|れつのテレビ局でも放送された (系列)
- ⑦ かけ|観の異なる人の意見にも耳を傾けたい (価値)
- ⑧ 私たちは、四季の美しさに困まれてく|らしてきた (暮)
- ⑨ 庭の草花にひり|ょうをほどこした (肥料)
- ⑩ 無駄をは|ぶいた練習をする (省)

2 漢字の書き1

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① しょうがいの友 () 生涯 ()
- ② いっぱんな意見 () 一般 ()
- ③ 裏からはんにゆうする () 搬入 ()
- ④ 両者の意見がいつちする () 一致 ()
- ⑤ 強風でよこだおしになる () 横倒 ()
- ⑥ 目的地にとうちやくする () 到着 ()
- ⑦ ながめが気に入った () 眺 ()
- ⑧ 決定的なしゅんかん () 瞬間 ()
- ⑨ 北海道へそかいした () 疎開 ()
- ⑩ 穴をほる () 掘 ()
- 意**空襲**や**火災**の被害から逃れるために、**地方**へ一時避難すること。**

2

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 白組をおうえんする () 応援 ()
- ② 目標に向かってじっせんする () 実践 ()

③ べんぎをはかる (便宜)

④ もぎ試験を受ける (模擬)
【注】その場合・状況にぴったり合う処置。「宜」を用いる熟語には「適宜」などもある。

⑤ 会議がふんきゆうする (紛糾)

【意】物事がうまくいかず、もつれること。

⑥ 一点をぎようしする (凝視)

⑦ つつしんでおわびしたい (慎)

⑧ 目標をかかける (掲)

⑨ 客をむかえる (迎)

⑩ こりつ無縁の状態 (孤立)

【注】「狐」や「弧」と間違わないようにしましょう。

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

① しょくりようなんになる (食糧難)

【注】「食糧」は主に主食となる食品で、「食料」は主に主食以外の食品。

② 文明のはっしょう地 (発祥)

③ こくせきは問わない (国籍)

④ 右にせんかいる (旋回)

⑤ 今日(けふ)はせんたく日和だ (洗濯)

⑥ ちつじよある行動 (秩序)

⑦ 樹木をばっさいする (伐採)

⑧ 意思をつらぬき通す (貫)

⑨ ふきようにあえぐ (不況)

⑩ 学級へいさになる (閉鎖)

3 言葉の学習

組	
番号	
氏名	

1

次の①から⑩のそれぞれの文では、()の中の言葉のどれが適切ですか。言葉を()で囲みなさい。

- ① 会議で決を()執る 撮る 捕る (採る)。
- ② 二つの国はたいへん()緊張 緊迫 (緊密) 緊急 ()な関係にある。
- ③ 試合に負けてチームのメンバーは()異口同音 悪戦苦闘 一部始終 (意気消沈) ()してしまった。
- ④ 中学校生活を振り返ると、いつでも()陰のように (陰ながら) (陰になり) 陰があり ()日向になりして私を支えてくれた家族の存在が大きかった。
- ⑤ 彼はこのチームの主軸といえる存在である。たとえ()そうであるならば ()そうであっても ()そうであるから ()そうであるので ()、ペナルティはだれにでも同じように与えられなければならない。
- ⑥ 参観日には父が学校へ来ると() (申し) おっしゃって 話されて 申されて ()おりました。
- ⑦ 会社の合理化を()測る 量る (図る) 計る ()。
注自分の身内(家族)の動作を相手に話すときは、謙譲語を用いる。
- ⑧ コンクールに向けて() (一新) (一心) (一身) (一審) ()に練習を行った。
- ⑨ 発言しなかったが、つい() (言いそびれて) 言いはって 言いすぎて 言いきって ()しまった。
- ⑩ 私たちは、自分たちのために() (せめては) (ついては) (かつては) (ひいては) ()人類全体のために環境問題の解決に努める必要がある。

⑪ オリエンテーリングでは雨に降られたが、（かえって）あくまでくわえて、そろえて）メンバーの心が一つになり、がんばることができた。

⑫ 母を呼びますので（お待ちください）お待ちしてください。お待たせください。お待たせなさい）。

⑬ 調査結果について、報道（機関）帰還 器官 期間）に説明する。

⑭ その品物の価格は、（適用 適性 適正）であると思われる。

⑮ ぼくは、ぼんやりと（空想を考える 空想にふける）空想を練る。空想に悩む）のが好きだ。

⑯ 中学校生活の三年間ではいろいろなことを学んできた。（ところで）たとえば）そして、さらに）部活動では努力することの大切さを学んだし、委員会活動では責任を果たすことの大切さを学んだ。

⑰ 校長先生は、壁の絵を（拝見しました）拝見されました。ご覧されました。ご覧されました）か。

2 次の①～④の意味に合う四字熟語を選んで、記号に○印をつけなさい。

① 絶え間なく、目に見えるように発展していくこと。

ア 心機一転 イ 電光石火 ウ 日進月歩 エ 一石二鳥

② だまっけていても、考えや気持ちがお互いに通じること。

ア 不言実行 イ 以心伝心 ウ 四苦八苦 エ 自画自賛

③ 物事や様子が、さまざまに変化していくこと。

ア 単刀直入 イ 右往左往 ウ 一進一退 エ 千変万化

④ 今までに例がなく、これからもあり得ないこと。

ア 空前絶後 イ 急転直下 ウ 単純明快 エ 異口同音

調 それぞれの四字熟語の意味も調べてみよう。

3 誤りやすい漢字

組	
番 号	
氏 名	

1 次の傍線部分を漢字に直して書きなさい。

- ① 雨で試合がエンキになった (延期)
- ② ハウテイで争われる (法廷)
- ③ 親類エンジャを頼る (縁者)
- ④ リヨクチ公園で遊ぶ (緑地)
- ⑤ キンカを集めている (金貨)
- ⑥ チンタイマンションに住む (賃貸)
- ⑦ シュウカンシを読む (週刊誌)
- ⑧ ケイバツを受ける (刑罰)

2 次の () に入る漢字をあとの () から選んで記入しなさい。

- ① (遺) 産相続をする
- ② 派 (遣) 社員に登録する
- ③ 原 (因) を究明する
- ④ 指摘を受けて (困) 惑する

(困) ． (因) ． (遣) ． (遺) ．
注形が似ていて誤りやすい漢字です。意味や音訓の違いを考えて、使い分けられるようにしよう。

3

次の（ ）に入る漢字をあとの（ ）の中から選びなさい。

① 心臓を（摘）出す

② 水（滴）がたまる

③ 環境に（適）応する

④ 強（敵）に当たる

（ 敵 ・ 適 ・ 摘 ・ 滴 ）

注同音異字の問題。同音異字とは、同じ音をもつ異なる漢字のことである。同じ部分を含む漢字も多いので気をつけよう。それぞれの漢字の意味をおさえておこう。

4

次の（ ）に入る漢字をあとの（ ）の中から選び、二字の熟語を完成させなさい。

① i（義）理 ii（議）会 iii（儀）牲 iv（儀）式

（ 義 ・ 儀 ・ 議 ・ 犧 ）

② i（復）路 ii（複）雑 iii（覆）面 iv（腹）

（ 復 ・ 複 ・ 腹 ・ 覆 ）

注形が似ている同音異字の二字熟語の問題。それぞれの漢字の意味をおさえておこう。

4 文法1 1-2年の復習

組	
番号	
氏名	

1 次のそれぞれの文の、文節と単語の数を数字で答えなさい。

- ① わたしは、中学生です。 文節「2」 単語「4」
- ② 西公園の桜は、ちょうど見頃だ。 文節「4」 単語「7」
- ③ 約束の場所で一時間待ったが、友達はまだ来なかった。 文節「6」 単語「13」
- 注** 単語の間を一字空け、文節にはサイドラインを引いてあるので、確かめよう。

2 次のそれぞれの文の _____ 線をつけた二つの文節どうしの関係として適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① きのもも、きょうも、図書館で勉強した。 ウ 「」
- ② 体育館のわきであじさいの花が咲く。 ア 「」
- ③ おおぜいの小学生が遊んでいる。 エ 「」
- ④ その映画はもう見ましたか。 イ 「」
- ⑤ もっと努力すれば、きっと合格する。 オ 「」
- ⑥ お姉ちゃん、先に出かけますよ。 カ 「」

- ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係
 ウ 並立の関係 エ 補助の関係
 オ 接続の関係 カ 独立の関係

3 次のそれぞれの文中の傍線部の品詞名を書きなさい。

- ① まさかあんなことになるとは思わなかった。 「動詞」
- ② 向こうの岸辺にいる白い鳥を見てごらん。 「形容詞」
- ③ 車で送ってもらうとたいへん楽だ。 「形容動詞」
- ④ 学校の裏山には、散歩道がつくられている。 「名詞」
- ⑤ あらゆる国の情報を、ネットで調べることができる。 「連体詞」
- ⑥ どんどん持ってきてくれ、お腹がすいているんだ。 「副詞」
- ⑦ 試験会場は仙台市および石巻市です。 「接続詞」
- ⑧ やあ、ここはなかなか快適な場所だな。 「感動詞」

4 次のア～エの傍線部の中で、一語の助動詞であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 後輩たちは、試合の経験がとても少ない。
イ 暗くてだれがだれだかよく分らない。
ウ その授業の内容は、まだ習ったことがない。
エ わたしの兄弟は、まだみんなおさない。
「イ」

5 次の①・②の傍線部と同じ意味・用法のものを後のア～エから一つずつ選び、ア～エの記号で答えなさい。

- ① 試合で勝った選手達のうれしそうな顔が思い出される。 「イ」
② 県内各地から寄せられた激励の手紙を読む。 「ア」
ア 道に迷いそうになったところを助けられた。
イ 入院した祖母のことが案じられる。
ウ お客様が、家に来られる。
エ 学校までは、車で十分足らずで行かれる。

6 次の各文中の傍線部の助詞の種類を後のア～エから選んで、記号で答えなさい。

- ① 休日は家で、テレビを見たり、音楽を聞いたりする。 「イ」
② この料理はすごくおいしいなあ。 「エ」
③ これこそ今年最高の科学的発見だ。 「ウ」
④ 資料を探しに図書館に行く。 「ア」

ア 格助詞 イ 接続助詞 ウ 副助詞 エ 終助詞

7 次の各部の（ ）に、最も適切な語句を入れなさい。
から選んで書き

- ① 庭先の花を見（ ながら ）散歩する。
② この洋服でよろしいです（ か ）。
③ その船は突然、西（ へ ）進路を変更した。
④ 子どもたちに（ まで ）笑われてしまった。

か ながら ので へ から まで

組			
番号			
氏名			

4 文法1 1-2年の復習

1 次の文の傍線部に「努力してきました」とありますが、「努力して」と「きた」とはどのような関係になっていますか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

人間は、太古の昔から、太陽や月や、星の運行にあこがれ、興味をもち、眺めてきた。近代になってからは、科学の進歩とともに、太古の人間がたどり着けなかった真理へと近づくために、いっそう努力してきた。

- ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係
ウ 並立の関係 エ 補助の関係 「 エ 」

2 ア～エの傍線のうち、次の文の傍線部「楽しく元気に」と文節どうしの関係が同じものはどれですか。ア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

先生、お元気ですか。わたしはこの三月に高校を卒業し、愛知県の大学に入学しました。わたしは大学でもバスケットボール部に入りました。わたしは小学校の時からスポーツ少年団でバスケットボールをしていたので、迷わず入部しました。練習はけっして楽ではありませんが、楽しく元気に活動しています……。

- ア 青い海が見える。 イ 公園のプールで友達が泳ぐ。
ウ 私は犬と猫を飼っている。 エ 明日は遠足なのでうれしい。 「 ウ 」

3 次の文の傍線部に「いまも」とありますが、この言葉はどこに係ってきますか。あとのア～エの中から選び、記号で答えなさい。

いまも父たちは、農業にさまざまな工夫や新たな試みがあることなどをさりげなく、しかも大いに楽しんでいきます。

- ア 父たちは イ 工夫や新たな試みがある
ウ さりげなく エ 楽しんでいきます 「 エ 」

4 次の①～③の各文の傍線部の「さっ」「き」「はじけ」をそれぞれ終止形(言い切りのかたち)に直して書きなさい。

- ① 彼らは試合に負けたあと、涙を流しながら球場をさっ¹ていった。
② ひときわ高い歓声が耳に飛び込んできて、はっと我に返った。
③ 種子の中には、自然にはじけてちっ²てしまうものもある。

- ① 「さ(去)る」 ② 「くる」 ③ 「ち(散)る」

5 次の文章の中で、傍線のついた語句の中で文法上他と異なるものを一つ選び、その記号を書きなさい。

合同文化祭が a にぎやかに開催されたが、出身校の小学生の伝統芸能が b 特に見事だった。私たちは、c 静かに鑑賞しながらも、私たちの代よりも少ない人数ながら d みごとに演じた後輩たちを、誇りに思った。

「 b 」

6 傍線部「大きな」とありますが、この「な」と同じ意味・用法のものをあとのア～エの中から選び、記号で答えなさい。

人間の歳の数え方には、「満」と「かぞえ」とがあります。例えば中学校二年生の君たちで言えば、満で十四歳、かぞえで十五歳ということになります。これは、おぎゃあと生まれた時から歳を数えたものを「満」、お母さんの、お腹の中で生きてきた一年を加えたものを「かぞえ」というのです。ですから、君たちには、君たちの生命を大切に守っていく、大きな責任があります。

ア まるで夢のような出来事だった。
イ 君たちの未来にはいろんな選択肢がある。
ウ ここは海の近くのたいへん静かな町だ。
エ 「道路に飛び出すな。」と注意した。

「 イ 」

7 次の文の傍線部「ようだ」と同じはたらきをしているものを、後のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

人間には、人それぞれの固有な行動パターンがあるようだ。

ア 彼女は、明るく朗らかで、まるで太陽のようだ。
イ 私は、彼のような感動を与える選手になりたい。
ウ 犬が騒いでる、明日は雪が降るようである。
エ 私たちの植えた花が、きつと咲きますように…。

「 ウ 」

8 次の文中の傍線部「より」と同じはたらきで用いられている「より」を含む文を、後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

今年の夏より去年の夏の方が、暑かったような気がする。

ア 母の日に、子どもたちは、腕によりをかけて料理を作った。
イ 今年の太平洋高気圧は、例年に比べて東よりに位置している。
ウ 「疲れた。」そういうと、囲炉裏のそばの柱によりかかった。
エ 実際に試してみたが、思ったより簡単に使うことができた。

「 エ 」

5 文法2 敬語の用法

組	
番号	
氏名	

1 次の表の()に、尊敬語、謙譲語、丁寧語、接頭語のいずれかを書き入れなさい。

敬語の種類	敬語のはたらき
(尊敬語)	目上の相手の動作などへの敬意を示す言葉。
(謙譲語)	目上の相手に対する自分(や家族)の行動をへりくだることで、相手を敬う言葉。自分(や家族)がへりくだることで、その結果、相手に敬意を示す。
(丁寧語)	「お」「ご」「御」などの(接頭語)や、文末を「です」「ます」「ございます」などの丁寧な表現にすることで、相手に敬意を示す言葉。

2 次の「動詞にかかわる尊敬語・謙譲語についての表」で、()に、当てはまる言葉を書きなさい。(斜線の欄は当てはまる言葉はありません。)

語例	尊敬語	謙譲語
行く	いらっしゃる	(参る)
来る	(おいでになる)	伺う
いる	(おっしゃる)	おる
言う		申す
話す		申し上げる
見る	ご覧になる	拝見する
聞く		(伺う)
食べる	(召しあがる)	(いただく・賜る)
飲む	あがる	頂戴する
もらう		
くれる	(くださる)	
やる		(差し上げる)
与える		
する	(なさる) (あそばす)	いたす

調「思っ」の謙譲語、「着る」の尊敬語もあるので、調べてみよう。

3 次のそれぞれの文章の（ ）にあてはまる言葉を入れなさい。

「読む」の尊敬語は、「お読みになる」で、謙讓語では「お読みする」である。このように接頭語を使う敬語の表現では、「お……になる」は尊敬語の表現で、「お……する」ならば、謙讓語の表現である。この場合は「お」が接頭語である。

これを「聞く」にあてはめると「(お聞きになる)」が尊敬語となり、「(お聞きする)」が謙讓語となる。

また、「ご……になる」や「ご……する」のようなものもある。例えば、「席に着く」の尊敬語は「(ご着席になる)」である。「案内する」の謙讓語は、「(ご案内する)」である。

一方、名詞に接頭語「お」がつくことで、丁寧語の敬語表現になる。例えば、「お米」、「おふろ」、「お水」、「おみそ汁」などである。

また、「母」に「お」や、接尾語の「さん」をつけると「お母さん」となるが、これも敬語表現なので、使う場合を気を付けたい。

4 次のそれぞれの文の中で、傍線部の敬語の使用上に誤りのあるものに、「X」を付けなさい。

① 「X」お母さんが、先生にお電話をなさるそうです。
「母が、先生にお電話を差し上げるそうです。」

② 「X」教室に先生はおりますか。
「教室に先生はいらっしゃいますか。」

③ 「先生が本を読んでいらっしゃる。」
「X」先生が本をお読みになられていらっしゃる。

5 次の各文の傍線部の敬語の種類として最も適切なものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① お茶を召し上げられ。 「ア」
② すぐにうかがいます。 「イ」
③ あすは晴れるでしょう。 「ウ」

ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語

5 文法2 敬語の用法

組	
番号	
氏名	

1 次の電話による会話文を読んで、——線部ア～オのうち、敬語の使い方として誤っているものを、二つ選び、記号で答え、それぞれ正しい表現に直しなさい。

鈴木 「もしもし、佐藤さんのお宅でしょうか。」

佐藤 「はい、そうです」

鈴木 「私、鈴木と申します^ア。お父さんに会社でお世話になったのですが、お父さんはご在宅ですか。」

佐藤 「父は今、散歩にお出かけ^イになっております。一時間ほどで帰ると思います。」

鈴木 「それでは、先日のお約束どおり、明日十時にお宅にうかがうとお伝えください。」

佐藤 「わかりました。鈴木さんが、明日^エうかがうと、伝えます。」

鈴木 「お父さんにお目^オにかかるのを楽しみにしております。それでは失礼します。」

佐藤 「失礼します。」

記号	正しい表現
イ	出かけて(おります)
エ	いらっしゃる

2 次の [] には、軽い敬意を含んだ言葉が入ります。後のア～エから選んで、記号で答えなさい。

母は父に声をかけた。

「お父さん。……ほら、お友達が [] わよ。」 「イ」

ア 来た イ みえた ウ あらわれた エ 訪れた

3 次の職員室での会話文を読み、傍線部の言葉を正しい表現に直して、十字以内で書きなさい。

太郎くん 失礼します。川村先生はおりますか。
川村先生 はい。私はここにいますよ。どうしたの、太郎くん。
太郎くん 先生。今日の帰りの会で連絡することはありませんか。
川村先生 太郎くんは日直でしたね。ご苦労さま。では、明日から始まる体験学習の班長会が行われることを、連絡してください。

い

ら

っ

し

ゃ

い

ま

す

か

4 次の教室での会話文を読み、に当てはまる最も適切なものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

先生 「家庭訪問の都合のよい日をお母さんに聞いてくれましたか。」
生徒 「はい。」
先生 「わかりました。では火曜日にしましょう。」

- ア 火曜日に来てくださいと母がおっしゃっておいりました。
- イ 火曜日においでくださいと母が申しておりました。
- ウ 火曜日にうかがってくださいと母が言っておりました。
- エ 火曜日に訪問してくださいと母がお言いになりました。

5 次の文中の傍線部の言葉を、適切な敬語表現に直しなさい。 「イ」

① このたび生徒会長に立候補した広瀬太郎くんは、まじめな人柄で友人たちから厚い信頼を得ています。顧問の先生に聞いたところ、彼は一年生で副会長を務めていたときも、「みんなで力を合わせて、活気あふれる生徒会を創造していきたい。」と話していたそうです。

お聞きした・お伺いした(伺った)

② 生徒 「今度、そちらへ職場見学に 行ってよろしいでしょうか。」
会社の人 「はい、結構です。事前に計画書を送ってください。」
生徒 「はい。計画書ができあがり次第、お送りしますので、見てください。」

ア お伺いして(伺って)
イ ご覧

6 説明的文章1 要約する

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

- ① 言語はわれわれの話をするための道具であるが、またおしる考えるための道具である。言語なしに「考える」ことはできそうもない。動物心理学者はなんと教えるか知らないが、¹私には牛馬や鳶鳥が物を「考える」とは想像できない。考えの式を組み立てるための記号をもたないと思われるからである。聾啞者^{ろうあしや}には音響の言語はないが、これに代わるべき動作の言語がちゃんと備わっているのである。
- ② 数学では最初に若干の公理前提を置いて、あとは論理に従って前提の中に含まれているものを分析し、分析したものを組み立ててゆくのであるが、われわれの言語によって考えを運んでゆく過程もかなりこれと似たところがある。もちろん、数学の公理や論理はきわめて簡単明瞭であり、使用される概念も明確に制定されているに反して、言語による思考の場合では、これらのすべてのものが複雑に多義的であるから、一見同様な前提から多種多様な結論が生まれ出るように見える。しかし実際の場合に前提の数が非常に多いから全く同一な前提群から出発するという事は実はあり得ないのである。

(中略)

- ③ ²語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならぬ。しかしただそれを通り理解し暗記しただけでは自分で話す事もできなければ文章も書けない。長い修練によってそれをすっかり体得した上で、始めて自分自身の考えを運ぶ道具にする事ができる。
- ④ 数学でも、ただ教科書や講義のノートにある事がらを全部理解しただけではなかなか自分の用には立たない。やはりいろいろな符号の意味をすっかり徹底的にのみ込む事はもちろん、またいろいろな公式をかなりの程度まで暗記して、一度わがものにしてしまわなければ実際の計算は困難である。
- ⑤ それで語学も数学もその修得は一気呵成^{いっきかせい}にはできない。平たくいえば、飽きずに急がずに長く時間をかける事が、少なくとも「必要条件」の一つである。

⑥ ただしこれだけでは「充分なる条件」ではない。いくら単語をたくさん覚え、文法をそらんじてもよい文章は書けないと同様に、いくら数学に習熟してもそれで立派なオリジナルな論文が書けるとは限らない。これはいうまでもない事である。

(寺田寅彦「数学と語学」から)

(1) ¹私には牛馬や鳶鳥^{とんびからず}が物を「考える」とは想像できない。とありますが、それはなぜですか。「言語」「道具」という言葉を必ず用いて、簡潔に説明しなさい。

(例) 牛馬や鳶鳥は考えるための道具である言語をもっていないと思われるから。

注 「なぜか」と理由を問われたときは、文末を「¹から。」と結ぼう。

(2) ²語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならぬ。とありますが、数学において語学の場合の「単語」「文法」に当たるものは何ですか。④段落から探し、答えなさい。

符号

公式

(3) 次の条件に従って③④⑥段落を要約しなさい。

- 「修得」「必要条件」「充分なる条件」という語句を必ず使うこと。
- 一〇〇字以内で要約すること。

(例)

	語学や数学を修得するには単語や文法、	符号や公式などを覚えるために、飽きず	に急がずに長く時間をかけることだが少な	くとも必要条件の一つである。	れだけでは充分なる条件ではない。
--	--------------------	--------------------	---------------------	----------------	------------------

6 説明的文章1 要約する

組	
番号	
氏名	

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

比較的新しい地質時代に日本とアジア大陸とは陸続きになっていて、象や犀さいの先祖が大陸からの徒歩旅行の果に、東端の日本の土地に到着し、現在の吾々の住まっているここあたりをうろついていたということは地質学者の研究によって明らかになった事実である。しかしその頃既に人間の先祖が象と一緒に歩いてきたかどうかはよく分らない。それはとにかく、日本が大陸から千切れて島国になっても、船というものを造ることに成功した人間は、永い間に、何遍なんべんとなくそうして色々な方面から日本の国に渡って来たであろう。それと同時に多種多様な民族の色々な文化の流れがこの極東の細長い島国の中に合流こんりゅうし集注したであろう。従って我等の国語にはあらゆる民族の言語が混淆こんりゅうし融合してしまって、今となっては容易に分析することが出来ないようになってしまっているように思われる。我等の同胞の顔貌がんぼうの中にはまたあらゆる人種の定型がそれぞれに標本的に洩もれなく代表されているようである。

日本人が真に日本の土の中から生れ、日本の言語が全く独立に発生したと考えるのは、子こが水から発生すると考えるよりも一層非科学的である。同様に例えば日本の短歌の詩形が日本で始めて発生したものと速断するのも所由いわれのないことであろうと思う。

五七五七七七という音数律そのままのものは勿論もちろん現在では日本特有のものであるが、この詩形の遠い先祖となるべきものが必ず何処どこかにあったであろうと想像し、その同じ先祖から出た他の家族が何処どこかにありはしなかったかと想像するのはそれほど唐突な空想とは思われない。

(寺田寅彦「短歌の詩形」から)

例

問い「日本の言語」の発生についての筆者の考えを、「多種多様な民族」、「日本の言語」、「日本の短歌の詩形」という言葉を必ず用いて、二百五十字から三百字程度で要約しなさい。

		の	は	処	形	は	で	五	る	日	ら	し	こ	に	に	日
		で	、	か	の	じ	は	七	の	本	ゆ	た	の	多	渡	本
		あ	そ	に	遠	め	日	七	は	の	る	で	極	種	っ	人
		る	れ	あ	い	て	本	と	、	言	民	あ	東	多	て	の
		。	ほ	っ	先	発	特	い	非	語	族	ろ	の	様	来	祖
			ど	た	祖	生	有	う	科	が	の	う	細	な	た	先
			唐	で	と	し	の	日	学	全	言	。	長	民	の	は
			突	あ	な	た	も	本	的	く	語	従	い	族	で	色
			な	ろ	る	も	の	の	で	独	が	っ	島	の	あ	々
			空	う	べ	の	で	短	あ	立	混	て	国	色	ろ	な
			想	、	き	で	あ	歌	る	に	淆	我	の	々	う	方
			と	と	も	は	ろ	の	。	発	し	等	中	な	が	面
3	0		は	想	の	な	う	詩	同	生	融	の	に	文	、	か
			思	像	が	く	が	型	様	し	合	国	合	化	そ	ら
			わ	す	、	、	、	も	に	た	し	語	流	の	れ	日
			れ	る	必	こ	日	、	、	と	て	に	し	流	と	本
			な	こ	ず	の	本	現	五	考	お	は	集	れ	同	の
			い	と	何	詩	で	在	七	え	り	あ	注	が	時	国

7 詩1 作者の意図を読み取る

組			
番号			
氏名			

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

どこかで紙鳶たこのうなりがする
子どもらの耳は敏さとしく
青空はひさしぶりでおもひだされた
いままで凍いてついてゐたやうな頑固な手もほんのりと赤味をさし
どこことなく何とはなしににぎやかだ
どこかで紙鳶たこのうなりがする
それときいてひとびとは
ああ（ b ）がきたなと思ふ
そして何か見つけるやうな目付で
水水しい青空をみあげる
てんでに紙鳶たこを田圃たんぼにもちだす子ども等
やがてあちらでもこちらでもあがるその紙鳶たこ
それと一しよに段段と
子どもらの足も地べたを離れるんだ

山村暮鳥

（ a ）

①（ a ）【題名】と（ b ）には同じ言葉が入ります。その言葉を次の中から選んで答えなさい。

正月 春 夏 秋 冬

解答欄
春

注 四行目に着目しよう。

② 子どもらの足も地べたを離れるんだとありますが、これは「子どもら」のどのような様子を表現していますか。簡潔に説明しなさい。

（例）春になって、子どもらが紙鳶をしながら元気に走り回ったり飛び回ったりしている様子。

注 「どのような様子か」と問われたときは、「〃様子」と答えよう。

7 詩1 作者の意図を読み取る

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

椰子の実

島崎 藤村

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ

故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月

旧の樹は生ひや茂れる
枝はなほ影をやなせる

われもまた渚を枕
孤身の浮寝の旅ぞ

実をとりて胸にあつれば
新なり流離の憂

海の日たぎの沈むを見れば
激り落つ異郷の涙

思ひやる八重やへの汐々しおしお
いづれの日にか国へ帰らむ

※汝：おまえ。きみ。

そも：それにしても。

浮寝：夜ごとに寝るところをか
えること。

あつれば：当てれば

流離：郷里を離れて他国をさま
ようこと。流浪。

激る：さかんにわき上がる。

八重：数多く重なっているこ
と。

① われもまた渚を枕 / 孤身の浮寝の旅ぞとありますが、ここから「われ」は今どこにいることが分かりますか。次のどちらかを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 名も知らぬ遠き島。

イ

イ 故郷を遠く離れた海辺。

② 「われ」は自分を何と重ね合わせていますか。詩の中の言葉を用いて二十字程度で答えなさい。

名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実

③ 異郷の涙 とありますが、これとほぼ同じ心情を表す表現を詩の中から四字で抜き出しなさい。

流離の憂

調詩を文体と形式によって種類に分けると、口語自由詩、口語定型詩、文語自由詩、文語定型詩に分けることができる(散文詩という種類もある)。この詩の種類はどれに当てはまるか、考えてみよう。

8 古文1 和歌を読み味わう

組	
番号	
氏名	

1 次の和歌を読んで、問いに答えなさい。

- A あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る
あかねさす 紫野 行き 標野 行き 野守 は見ず や 君が 袖 振る
 額田王 ぬかたのおおきみ
- B 春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つをとめ
はるの 苑 紅 に ほふ 桃 の 花 下 照る 道 に 出で 立つ と ため
 大伴家持 おほともをやかもち
- C 人はいさ心も知らずふるさと花ぞむかしの香にほひける
人は いさ 心 も 知らず ふるさと はな ぞ むかしの 香 に ほひ ける
 紀貫之 きのつらゆき
- D 見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける
みわたせば りゅうおうを こきまぜて みよ ぞ はるの 錦 なり ける
 素性法師 そせいほふし
- E 大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立
おほやま いくの の ちの みの ちの へんが ちの へんが ちの へんが
 小式部内侍 こしきぶのちのせ

① Aの和歌の「あかねさす」は特定の語句を導き出し、それを飾る言葉です。このような言葉を何といいますか。次の中から選んで答えなさい。

枕詞 まくらご

序詞 じご

掛詞 かけご

縁語 えんご

枕詞

② Bの和歌に用いられている表現技法を答えなさい。

注 Eの和歌にも用いられている。

体言止め

③ Cの和歌は何句切れですか。

注 句切れは意味の切れ目のこと。

二句切れ

④ CとDの和歌では「ぞ」という助詞があるために結びが「ける」と本来の形を変えて終わっています。このような表現技法を何といいますか。

注 「ぞ」のほかに「なむ」や「こそ」もある。

係り結び

⑤ Eの和歌の「いく」という言葉と「ふみ」という言葉は、それぞれが同音の二つの言葉の意味を表しています。このような表現技法を何といいますか。次の中から選んで答えなさい。

枕詞 まくらご

序詞 じご

掛詞 かけご

縁語 えんご

掛詞

8 古文1 和歌を読み味わう

組	
番号	
氏名	

1 次の和歌を読んで、問いに答えなさい。

天智天皇

A 秋の田のかりほの庵の^{いほ}苦を^{くま}あらみわが^{ころも}衣手は露にぬれつつ

※苦：すげ、かやなどを編み、小屋などの雨露を防ぐもの。

山部赤人

B 田子の浦^{うら}ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺^{たかね}に雪は降りける

藤原敏行

C 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

光孝天皇

D 君がため春の野に出でて若菜^{わか}つむわが^{ころも}衣手に雪は降りつつ

在原業平

E 世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

凡河内躬恒

F 心あてに折らばや折らむ初霜^{はつしも}のおきまどはせる白菊^{しらぎく}の花

文屋朝康

G 白露^{しらつゆ}に風の吹きしく秋の野はつらぬきとめぬ玉ぞ散りける

① 次のア～オの文は、A～Gのどの和歌について書かれたものですか。それぞれ当てはまるものを選んで、記号で答えなさい。

- ア 白露がこぼれる秋の野の美しさ
- イ 晩秋の静けさ、農夫のつらさ
- ウ 早春のさわやかさと心づかい
- エ 霜と白菊、白の美しさ
- オ 富士山の崇高な美しさ

ア
G
イ
A
ウ
D
エ
F
オ
B

② Aの和歌の「苦をあらみ」の意味として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 苦が荒れているので
イ 苦を壊してしまったので
ウ 苦の編み方が粗いので
エ 苦がないので

ウ

③ Bの和歌で、作者がいる場所として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 田子の浦と富士の高嶺の中間の見晴らしのいい場所。
イ 田子の浦を見下ろす見晴らしのいい場所。
ウ 田子の浦を通して富士の高嶺が見える見晴らしのいい場所。
エ 田子の浦と富士の高嶺の両方が見えるが、雪で見通しの悪い場所。

ウ

④ AとGの和歌で、係り結びが使われている和歌をすべて答えなさい。

B、C、G

9 漢字の読み2

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 休暇をとって海に遊びに行った (きゅうか)
- ② 林道を歩いていて、カモシカに遭遇した (そうぐう)
意不意に出会うこと。
- ③ 集団で秩序正しく行動する (ちつじょ)
- ④ 先月、作品の展示会が催された (もよお)
- ⑤ おたがいに納得するまで話し合いたい (なっとく)
- ⑥ 先生の口調は滑らかである (なめ)
- ⑦ 夏休み中に、虫歯を治療しておきたい (ちりょう)
- ⑧ 澄みきった秋の空が広がっている (す)
- ⑨ デパートで、絵画展が開かれている (かいが)
- ⑩ 緩やかな坂道が続いている (ゆる)

2

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 結果を直ちに報告する (ただ)
- ② 優れた芸術に接し、美的感覚を研ぎ澄ます (と)

- ③ 元気に戸外で運動する
（ こが い ）
- ④ 祖母の柔和な顔をなつかしく思い出す
（ に ゆ う わ ）
- ⑤ 先生の一言で教室中が朗らかになる
（ ほ が ）
- ⑥ 文化祭の展示に工夫を凝らす
（ こ ）
- ⑦ 粘り強く努力することが肝心だ
（ か ん じ ん ）
- ⑧ 会議の欠席者は皆無であった
（ か い む ）
- ⑨ 原っぱで子どもといっしょに転げまわる
（ こ ろ ）
- ⑩ 波の上に漂う水鳥を見る
（ た だ よ ）

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 映画館で不朽の名作を鑑賞する
（ ふ き ゆ う ）
- ② 巢穴から小鳥が頻繁に出入りする
（ ひ ん ぱ ん ）
- ③ 晴れた日には、洗濯物がよく乾く
（ か わ ）
- ④ パイプオルガンの厳かな音色に心が洗われた
（ お ご そ ）
- ⑤ 提案の理由を詳細に説明する
（ し ゚ ゚ う さ い ）
- ⑥ 昭和の名作を網羅した文学全集を購入する
（ も う ら ）
- ⑦ 遺産をめぐる争いが起きる
（ い さ ん ）
- ⑧ 母は美容院を営んでいる
（ い と な ）
- ⑨ 努力して現在に至る
（ い た ）
- ⑩ 友達と川に沿って歩く
（ そ ）

【意全くないこと】

【注】「とが い」と間違わないようにしましょう。

9 漢字の読み2

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 追悼の辞を述べる (ついとう)
[意]死者をしのんで痛み悲しむこと。
② 狩猟に出かける (しゅりょう)

- ③ 醜悪な姿をさらす (しゅうあく)

- ④ 法律を遵守する (じゅんしゅ)

- ⑤ 管轄外で起きた事件 (かんかつ)

- ⑥ 栄枯盛衰を描いた作品 (えいこ)

- ⑦ 朱肉を借りる (しゅにく)

- ⑧ 甲乙丙丁 (こうおつへいてい)

[意]四段階の順番のことで、甲が最も優れている。

- ⑨ 土壌を改良する (どじょう)

- ⑩ 譲歩を重ねる (じょうほ)

[意]自分の主張や意見を引っ込めて他の説に従うこと。

2

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 失敗に懲りる (こ)

- ② 徹底的に話し合う (てっぺい)

- ③ 戸籍謄本を受け取る
（とうほん）
- ④ 物価が高騰する
（こうとう）
- ⑤ 外国作品を翻訳する
（ほんやく）
- ⑥ 図書館で閲覧する
（えつらん）
- ⑦ 寡黙な人物だ
（かもく）
- ⑧ 大臣を更迭する
（こうてつ）
- ⑨ 紙幣で払う
（しへい）
- ⑩ 食物繊維が豊富な食べ物
（せんい）

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 政治の中枢にいる
（ちゅうすう）
- ② 怪しい話を聞く
（あや）
- ③ 暁の空には月が出ていた
（あかつき）
- ④ 愚かな失敗をした
（おろ）
- ⑤ この公園は憩いの場だ
（いこ）
- ⑥ 殊に重要な点がある
（こと）
- ⑦ 罪の償いをする
（つぐな）
- ⑧ 話の先を促す
（うなが）
- ⑨ 仕事を怠る
（おこた）
- ⑩ 煩わしい用事が多い
（わずら）

【意】夜明け、明け方のこと。

【意】役目や職などに就いている人が代わること（代えること）。

10 漢字の書き2

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① どんなことにもせいじつに対応したい (誠実)
- ② 翼に傷をおった白鳥を保護した (負)
- ③ 古い雑誌をたばねて整理する (束)
- ④ さまざまな体験を通し、けんぶんを広める (見聞)
- ⑤ そっせんして委員会活動に取り組む (率先)
- ⑥ 体を力いっぱい後ろにそらす (反)
- ⑦ 掃除の手伝いをこころよく引き受ける (快)
- ⑧ 飛行機をそうじゅうするのが僕の夢だ (操縦)
- ⑨ 監督の一言にふんきし、勝利を誓う (奮起)
- ⑩ 夕焼けで空が赤くそまる (染)

2

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① あたり一面の銀世界に驚く (辺)
- ② 気分転換に公園をさんさくする (散策)

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ③ 徒然草はてんけい的な随筆文学だ
 ④ 十分に予習をして授業にのぞむ
 ⑤ 著名な作家のこうえんを聞く
 ⑥ 優勝のかんげきに浸る
 ⑦ 弓でのをいる
 ⑧ 彼の行動は人々に勇気をあたえた
 ⑨ 会のうんえいを任された
 ⑩ 一人一人のこせいを大切にする
- (典型)
 (臨)
 (講演)
 (感激)
 (射)
 (与)
 (運営)
 (個性)

- ① 体調をくずす
 (崩)

- ② けんきよな態度
 ③ 和やかなふんいき
 (謙虚)
 (雰囲気)

- ④ はらわたがにえくり返る
 (煮)

- ⑤ 人ごみにまぎれる
 (紛)

- ⑥ 言動をあやしむ
 (怪)

- ⑦ うえをしのぐ
 (飢)

- ⑧ やなぎに雪折れなし
 (柳)

- ⑨ 山々はすっかり雪げしようをしている
 (化粧)

- ⑩ 仕事のほうしゅうを受け取る
 (報酬)

意控え目で素直なこと。

10 漢字の書き2

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 彼は英語をくしする (駆使)
- ② ぎこうをこらした作品 (技巧)

- ③ 彼女の意見をこうていする (肯定)
- ④ 村はこうずいに見舞われた (洪水)

- ⑤ 世界平和にこうけんする (貢献)

- ⑥ げんこう用紙を使う (原稿)

- ⑦ 雑誌をこうにゆうする (購入)

- ⑧ ざんこな結末 (残酷)

- ⑨ なまり色の空 (鉛)

- ⑩ ちつじよある行動 (秩序)

2

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 鑑賞後のよいんを味わう (余韻)

- ② きがに苦しむ地域 (飢餓)

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ③ 申し出をきよひする (拒否)
- ④ こんいん届を提出する (婚姻)
- ⑤ ていねいな対応に感激した (丁寧)
- ⑥ ふんいきが良い店 (雰囲気)
- ⑦ こんだん会に参加する (懇談)
- ⑧ 熊におそわれる (襲)
- ⑨ みんぞく学の本 (民俗)
- ⑩ かべの絵を制作する (壁)
- ① イメージがふくらむ (膨)
- ② ガスがばくはつする (爆発)
- ③ しさに富んだ意見 (示唆)
- ④ 稲をさいばいする (栽培)
- ⑤ ばい償金を支払う (賠償)
- ⑥ はなはだ迷惑な話だ (甚)
- ⑦ 母はけんやくが得意だ (儉約)
- ⑧ しゅうしょくするのが厳しい時代 (就職)
- ⑨ 自己けいはつに努める (啓発)
- ⑩ 枝のせんたん (先端)

意それとなく指し示すこと。

11 説明的文章2 文章の展開に即して内容を読み取る

組	
番号	
氏名	

1 次は、寺田寅彦（一八七八年～一九三五年）が書いた文章です。これを読んで、問いに答えなさい。（一）から（四）は、段落の番号を表します。）
 【平成二十年度 全国学力・学習状況調査より】

一 ここに茶わんが一つあります。中には熱い湯がいっぱい入っています。ただそれだけでは何の面白みもなく不思議もないようすが、よく気をつけて見ていると、だんだんにいろいろの微妙なことが目につき、さまざまの疑問が起こってくるはずです。ただ一杯のこの湯でも、自然の現象を観察し研究することの好きな人には、なかなか面白い見物です。

（中略）

二 湯気が上がるときにはいろいろの渦うずができます。これがまたよく見ているとなかなか面白いものです。線香の煙でも何でも、煙の出るところからいくらかの高さまではまっすぐに上りますが、それ以上は煙がゆらゆらして、いくつもの渦になり、それがだんだんに拡がり入り乱れて、しまいに見えなくなってしまうます。茶わんの湯気などの場合だと、もう茶わんのすぐ上から大きな渦ができて、それがかなり早く回りながら上っていきます。

三 これとよく似た渦で、もっと大きなのが庭の上注1なぞにできることがあります。春先などのぼかぼか暖かい日には、前日雨でもふつて土のしめついているところへ日光が当たって、そこから白い湯気が立つことがよくあります。そういうときによく気をつけて見ていると、ごらんなさい。湯気は、縁の下や垣根の隙間すきまから冷たい風が吹き込むたびに、横になびいてはまた立ち上ります。そして時々大きな渦ができ、それがちょうど竜巻のようなものになって、地面から注2何尺もある、高い柱の形になり、非常な速さで回転するのを見ることがあるでしょう。

四 茶わんの上や、庭先で起こる渦のようなもので、もっと大仕掛けなものがあります。それは雷雨のときに空中に起こっている大きな渦です。陸地の上のどこかの一地方が日光のために特別に温められると、そこだけは地面から蒸発する水蒸気が特に多くなります。

2 そういいう地方の傍そばに、割合に冷たい空気におおわれた地方があります。

すと、前に言った地方の、暖かい空気が上がっていくあとへ、入り代わりにまわりの冷たい空気が下から吹き込んできて、大きな渦ができます。そして注3電ひょうがふつたり雷が鳴つたりします。

(注1) なぞII「など」に同じ。

(注2) 何尺II一尺は、約三〇・三センチメートル。

(注3) 電II主に積乱雲から雷雨に伴って降る、直径五ミリメートル以上の氷のかたまり。

① 「湯気が上がるときにはいろいろの渦うずができます。とありますが、「茶わんの湯気」の渦の様子が書かれた一文を本文中から探し、最初と最後の五字ずつを書きなさい。(句読点も一字に数えます。)

茶	わ	ん	の	湯	く	い	き	ま	す	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

注「一文を」に注意。

② 2そういう地方とは、どのような地方ですか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 「日光」、「水蒸気」の二語を必ず使って書くこと。

条件2 「地方」で終わるように書くこと。

(例) 日光に特別に温められたために、地面から蒸発する水蒸気の量が特に多い地方

③ **二**段落から**四**段落までの展開の仕方について説明したものとして最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話題を、抽象的なものから具体的なものに移しながら、文章を展開している。

イ 話題を、小さな現象から大きな現象へと移しながら、文章を展開している。

ウ 話題を、現象の観察から科学的な実験へと移しながら、文章を展開している。

エ 話題を、特殊なものから一般的なものに移しながら、文章を展開している。

イ

【74.5%】

【59.0%】

【46.6%】

11 説明的文章 文章の展開に即して内容を読み取る

組			
	番号		
		氏名	

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

昭和五十年代中頃、宮城県内のいくつかの古代遺跡からそれまで見
たことのない土器がまとまって出土した。宮城県名取市の清水遺跡、
宮城県北部栗原市志波姫の御駒堂遺跡などからの出土土器群である。
そして郡山二期官衙から同様の土器が発見された。飛鳥時代から
平安時代にかけて東北南半地域に所在する遺跡から出土する土師器
の坏・碗類など日用供膳容器はそのほとんどが吸水性を防ぐため土
器内面を磨きあげ、焼成段階でいぶし焼きにする「内面黒色処理」と
いう工程を経て仕上げられている。これを通称内黒土師器とよんでい
る。これらの内黒土師器に混じって新たに発見された土器は、赤褐色
または橙色薄手の土器などと呼ばれ区別されていた。後に、「関東系
土器」と呼ばれることになった土器群である。これらの土器のルーツ
は千葉県や茨城県・神奈川県など関東地方諸県のいくつかに求められ
た。そして、その後、宮城県中部以北から岩手県南部にかけての比較
的限定された地域の遺跡から次々と発見され、三十を超える遺跡数と
なった。遺跡の種類も城柵官衙遺跡はもとより、その近辺に位置する
集落遺跡、終末期古墳や横穴墓など多岐にわたる。特に近年発掘調査
が行われた、郡山官衙遺跡の西に隣接する長町駅東・西台畑の両遺跡
からは数百軒に及ぶ竪穴式住居跡が発見され、関東系土器がまとまっ
て出土した。

これら関東系土器の出土は、関東地方のかなり広範囲にわたる地域
から、宮城県北部を中心とする、これまた限定された地域への人々の
移動を示していると考えられた。土器の年代は七世紀後半から八世紀
中頃までの約百年と考えられた。

地域も年代も限られたこれら人々の移動を示す資料の存在は何を示
唆しているのか。この時期の文献資料の中にこれらの物的証拠に裏付
けられるいくつかの記録が残っている。最も大規模な人々の移動は、
『続日本紀』の靈龜元年（七一五年）五月の条に「相模・上総・常陸
・上野・武蔵・下野の六ヶ国より富民一千戸を陸奥に移配する。」と
いう記載である。一千戸の正確な人数はここでは記載がないが当時の
戸籍資料の記載内容から推定して、数万人に及ぶ大量の人員と考えら
れ、律令政府により、強制的に関東諸国の村々から徴用され、陸奥国
に移住させられたのである。国家事業としての移民政策がとられて

いたのである。霊亀元年（七一五年）という記載年は、郡山Ⅱ期官衙の存続期間中と考えられる年代にあたり、※国衙が多賀城に移される神亀元年（七二四年）の直前にあたる。この頃、陸奥国と蝦夷の住む地との境界は仙台平野のある宮城県中部以北にあり、これからまさに宮城県北部を領域にとり込んでいくための動きを起こしている時期に相当する。関東諸国からの大量移民入植者の人々は、宮城県北半域の蝦夷たちの先住する地域に、自分たちの※本貫地で使っていた器類をたずさえて入ってきたのである。

※官衙^{かんが}………律令制度における「官庁」こと。国家事務を行う場所。

※東北南半地域………律令制度による新体制下で陸奥国と定められた地域。宮城県が含まれる。

※徴用………戦争時などに政府が国民や占領地住民を強制的に動員して兵役を含まない一般業務につかせること。ここでは移住をさす。

※国衙………律令政府の国司が政務を執る施設が置かれていた場所や土地。
※本貫地………戸籍が編成（貫籍）されている土地。戸籍地。

仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）編集「平成二十年度地底の森ミュージアム特別企画展『陸奥国大戦争時代く蝦夷と移民く』より

① 「関東系土器」の特徴を本文中から十字以内で抜き出さない。

赤
褐
色
ま
た
は
橙
色
薄
手

② 部2について、地域も年代も限られたこれら人々の移動を示す資料の存在が示唆していることはどんなことですか。簡潔に説明しなさい。
注 「示唆する」とは、「それとなく指し示すこと」。

数万人に及ぶ大量の人員が、律令政府により、強制的に関東諸国の村々から徴用され、陸奥国に移住させられたということ。

③ 宮城県北部を中心とした遺跡から「関東系土器」が出土した理由を本文中の表現を用いて簡潔に説明しなさい。

（例）「続日本記」によれば、関東諸国からの大量の移民入植者の人々が、宮城県北半域の蝦夷たちの先住する地域に、入ってきた際に、自分たちの本貫地で使っていた「関東系土器類」をたずさえてきたと考えられるから。

12 詩2 詩を味わう

組			
番号			
氏名			

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

月夜の浜辺

中原中也

- 1 月夜の晩に、ボタンが一つ
- 2 波打際に、落ちてみた。
- 3 それを拾って、役立てようと
- 4 僕は思ったわけでもないが
- 5 なぜだかそれを捨てるに忍びず
- 6 僕はそれを、袂たもとに入れた。
- 7 月夜の晩に、ボタンが一つ
- 8 波打際に、落ちてみた。
- 9 それを拾って、役立てようと
- 10 僕は思ったわけでもないが
- 11 月に向つてそれは抛はなれず
- 12 浪に向つてそれは抛はなれず
- 13 僕はそれを、袂たもとに入れた。
- 14 月夜の晩に、拾ったボタンは
- 15 指先に沁しみ、心に沁しみた。
- 16 月夜の晩に、拾ったボタンは
- 17 どうしてそれが、捨てられようか？

* 袂たもと：和服の袖の下方の、袋のようになった部分。

※数字は行番号を表す

① この詩の種類を、語群の言葉を参考にして答えなさい。

口語 文語 定型詩 自由詩

口語自由詩

注 歴史的仮名遣いが用いられていても、文語表現

(例えば文末が「しけり」など)でなく、口語表現で書かれてあれば口語となる。

② 1・2行目と7・8行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

反復(法)

③ 11行目と12行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

対句(法)

④ 17行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

注 この「しようか」という表現技法は、疑問の意味

ではなく、「しだろうか、いや、しない」という意味を表す表現技法。

反語

(例)「そんなかわいそうなことができようか。」

(そんなかわいそうなことができるだろうか、いやできるわけがない。)

⑤ なぜだかそれを捨てるに忍びずとありますが、

ア これと同じ意味を表している行を番号で答えなさい。

11と12

イ その理由を述べている行を番号で答えなさい。

14と15

12 詩2 詩を味わう

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

新緑の頃ころ

高村光太郎

青葉若葉に野山のかげろう時、
ああ植物は清いと思う。

ア植物はもう一度少年となり少女となり

五月六月の日本列島は隅から隅まで
濡れて出たような緑のお祭。

たとえばかえで楓のこずえ梢をみても

うぶな、こまやかな仕掛に満ちる。

小さな葉っぱは世にも丁寧に畳まれて
もっと小さな芽からぱらりと出る。

イそれがほどけて手をひらく。

晴ればかがやき、降ればにじみ、
人なつこく風にそよいで、

ああ植物は清いと思う。

そういうところへ昔ながらの燕つばめが飛び

夜は地虫のやさえひびく。

天然は実にふるい行状で

こうもあざやかな意匠をウつくる。

※かげろう：透き通った炎のよ

うに地面からゆら

ゆら立ち上る

うぶな：純真な。

意匠：デザイン。

① この詩の種類を答えなさい。

口語自由詩

② ア植物はもう一度少年となり少女となりとありますが、これはどのような状態を表していますか。簡潔に説明しなさい。

(例) 春になって再び青葉若葉が生い茂ってきた状態。

注「どのような状態か」という問いには、「く状態」となるように答えよう。

③ イそれがほどこけて手をひらく。とありますが、ここに用いられている表現の技法を答えなさい。

擬人法

④ ウつくるとありますが、この主語は何ですか。詩の中の言葉(一文節)で抜き出さない。

天然は

13 短歌について書こう

組	
番号	
氏名	

解答例

(選択番号 ①) この歌の作者は自分の夢に向かってはばたこうとしながらも、悩みをかかえて迷っているのではないか。特に「青春と夢と疑問が詰まってる」という表現からそう感じた。

青春時代には未来に対する夢がある。だが、同時に多くの疑問もかかえているものだと思う。私もときどき、「なぜ勉強するのだろう」とか、「なぜ生きているのだろう」と考えてしまうことがある。

また、「四角い小部屋」という表現から、作者の心は教室から飛び出し、もっと広い世界へ向かおうとしているとも感じた。そんな作者に私は共感した。

(選択番号 ②) この歌の作者は、バスの中でお年寄りに席を譲りたいと思ったが、それを言葉に出す勇気がなかなか持てなかったのかもしれない。だから、「座りますか」という一言が言えたとき、きつと大きな満足感を持ったのだろう。「自分に拍手を送る」が、それをよく表していると思う。

席を譲るといふのは、簡単なことのように思えるが、その場になると勇気がいる。私も「どうぞ」の一言がどうしても言えず、後悔したことがある。この歌からは、そんなもやもやを吹っ切った、作者のさわやかな気持ち伝わってくる。

(選択番号 ③) この歌の作者はなぜ「久しぶり」にこの道を下校するのだろう。病気が何かで長いこと欠席でもしていたのだろうか。その「久しぶり」の間に、道ばたに秋桜の花が咲いた。そこから、季節の移り変わりを感じたのだと思う。

見慣れた道が、ちょっとしたことと違う顔を見せたり季節の変化を感じさせたりする。そういうことは、私たちの毎日の生活の中にいくらかもあるような気がするが、ふだんはそれに気がつかないだけなのだろう。この歌からは、作者の優しいまなざしと、感動とが伝わってくる。

解説

次のような点に気をつけてよく読み取ったうえで書く。

1 どんな情景が描かれているのか。(時・場所・季節・状況など)

2 どんな心情が描かれているのか。(喜怒哀楽のどの感情が描かれているのか、なぜその感情がわき起こっているのか、など)

3 歌に使われている言葉のイメージや、言葉と言葉のつながりをもとに、自分のイメージを広げて想像してみる。ただし、自分勝手な空想にならないように注意する。

14 古文2 古文の読解

組	
番号	
氏名	

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔平成十八年度 宮城県公立高校入試問題〕

つれづれなる折をり、昔の人の文見出ふみいでたるは、ただ①その折の心地して、いみじくうれしくこそおぼゆれ。まして亡き人などの書きたるものなど見るは、いみじくあはれに、年月の多く積もりたるも、ただ今筆うち濡ぬらして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。

何事も、②たださし向かひたるほどの情ばかりにてこそはべるに、これは、ただ昔ながらつゆ変わるることなきも、いとめでたきことなり。

(「無名草子むみょうそうし」による)

※つゆ：少しも。

① 右の文章中に「①その折」とありますが、その内容を説明したものととして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア その手紙をもらったとき。
- イ その手紙をみつけたとき。
- ウ その手紙をとどけたとき。
- エ その手紙をなくしたとき。

ア

② 右の文章中に「②たださし向かひたるほどの情ばかりにてこそはべる」とありますが、これと対称的なこととして表現されている部分を、文章中から十五字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

た	だ	昔	な	が	ら	つ	ゆ	変	わ	る	こ	と	な	き
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

③ 右の文章中に述べられている筆者の考えとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直接話すよりも自分の気持ちを素直に表現することができ、手紙を交わした相手とは変わらない友情で結ばれるのが手紙のよさである。

イ 時間や空間を越えて人々と交流でき、会ったことのない昔の人や異国の人でも、読めばすぐに心を通わせられるのが手紙のよさである。

ウ いくら時間が経過してもつづられた言葉は変わらないで残り、読めばすぐに当時のことがあざやかによみがえるのが手紙のよさである。

エ 自分の気持ちが落ち着かないときに書いてしまった手紙でも、時間をおいて文面を何度も書き直すことができるのが手紙のよさである。

ウ

14 古文2 古文の読解

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔平成十七年度 宮城県公立高校入試問題〕

筆ひちりき策もちてる師用光、南海道に発向のとき、海賊にあひにけり。用光をすでに殺さんとする時、海賊に向かひていはく、我久しく筆策をもて朝につかへ、世にゆるされたり。今いふかひなく賊徒のために害されんとす。これ宿業のしからしむるなり。しばらくの命を得させよ。一曲の雅声をふかんといへば、海賊ぬける太刀をおさへてふかせけり。①用光、最後のつとめと思ひて、泣く泣く臨調子を吹きにけり。その時、なさけなき群賊も感涙をたれて用光をゆるしてけり。あまさへ淡路の南浦までおくりておろし置きにけり。諸道に長けぬるは、②かくのごとくの徳をかならずあらはす事なり。

(「古今著聞集」による)

※筆策：雅楽に用いる竹製の笛。

宿業：前世の約束事。

臨調子：筆策の秘伝の一曲。

あまさへ：その上。

① 右の文章中から、用光の発言にあたる箇所を抜き出し、はじめと終わりを、それぞれ三字で答えなさい。

我久し

ふかん

注 古文の会話文の書き表し方の特徴を覚えよう。『くが言うには、・・・』と。『のよう』に、会話文の直後には、「と」という助詞が続くことが多い。

② 右の文章中に「用光、最後のつとめと思ひて」とありますが、このときの用光の気持ちの説明したものととして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自らの人生を筆策にかけてきた、その思いのすべてを吹き納めの一曲に込めて演奏しようという気持ち。
- イ 自分から望まない演奏であっても、命じられた最後の仕事を冷静になつて淡々とこなそうという気持ち。
- ウ 筆策を吹けなくなるのはつらいので、最高の演奏で感動させて自分の命を助けてもらおうという気持ち。
- エ 命を助けてもらったお礼に、自分の得意とする筆策の演奏で海賊の心をいやしてあげようという気持ち。

ア

③ 右の文章中に「^②かくのごとくの徳をかならずあらず事なり。」とありますが、その内容を説明したものととして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つの道で能力を発揮する人は、何気ないふるまいから自信が伝わるので他人から信頼を寄せられるようになること。

イ 一つの道で苦勞を味わった人は、相手の心を深く理解し他人に対しても優しく接することができるようになること。

ウ 一つの道で地道に努力を重ねた人は、精神が鍛えられてどんな状況におかれても平然と行動ができるようになること。

エ 一つの道で円熟の境地にある人は、優れた技量で周囲を感動させ他人の考えや行動に影響を与えるようになること。

エ

15 漢詩 漢詩に親しむ

組	
番号	
氏名	

1 次の漢詩を読んで、問いに答えなさい。

涼州詞

王翰

葡萄美酒夜光杯

葡萄の美酒夜光の杯

欲飲琵琶馬上催

醉臥沙場君莫笑

酔ふて沙場に臥すとも君笑ふこと

古来征战几人回

なかれ
古来征战幾人かかへる

① この詩の形式を答えなさい。

七言絶句

② この詩で押韻している漢字をすべて抜き出しなさい。

杯、催、回

注漢詩の構成については、二年「漢詩 漢詩の形式を知る」のステップ1参照。

③ 欲飲琵琶馬上催

を書き下し文に直しなさい。

飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

④ 幾人かかへる とありますが、その現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 幾人かがかえってきた。
- イ 幾人がかえってきただろうか。
- ウ みんながかえってきた。
- エ だれもかえってこなかった。

イ

15 漢詩 漢詩に親しむ

組
番号
氏名

1 次の漢詩を読んで、問いに答えなさい。

桂林莊雜詠諸生に示す

広瀬淡窓

休道やメモ

他郷いフヲ多シト苦辛ニ

道いふを休やめよ他郷たきよう苦辛くしん多しと

同袍あ有レ友おのづから自シム相親シム

同袍あ有レ友おのづから自シム相親シム

柴扉ニ曉ツレバ出シ霜ノ如シ雪ノ

柴扉さいひ曉あかつきに出いづれば霜雪しもゆきの如ごとし

君ハ汲ニ川メ流ヲ我ハ拾ハシ薪ヲ

君せんりうは川流くを汲くめ我われは薪たきぎを拾ひろわん

① この詩の形式を答えなさい。

七言絶句

② この詩で押韻おうえんしている漢字をすべて抜き出
しなさい。

辛、親、薪

③ 第一句に用いられている表現技法を答えな
さい。

倒置法

注この表現技法は、言葉の順番を入れ替えて、最も言いたいことを先に述べて強調する
表現技法。

④ 第一句の書き下し文を通常の語順に並べ替えるかどうか。

他郷苦辛多しと道ふを休めよ

⑤ 同袍 友有あり 友自おのづから 相親シム を書き下し文に直しなさい。

同袍友有り自ら相親しむ

⑥ 霜雪しもゆきの如ごとし とありますが、その意味として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 霜がまるで雪のように降りている。
- イ 雪がまるで霜のように積もっている。
- ウ 霜の上に雪が降り積もっている。
- エ 霜も雪もどちらも真っ白だ。

ア

⑦ この詩の「転句」を書き下し文で書きなさい。

柴扉曉に出づれば霜雪の如し

注 漢詩の構成については、二年「漢詩 漢詩の形式を知る」のステップ1参照。

16 文法のみとめ あいまいな文・論理構造

組	
番号	
氏名	

1 次の各例文を二つの意味に取れるように、読点を打って書きなさい。

例文① ここではきものをぬぎなさい。

ここで、はきもの(履物)をぬ(脱)ぎなさい。

ここでは、きもの(着物)をぬ(脱)ぎなさい。

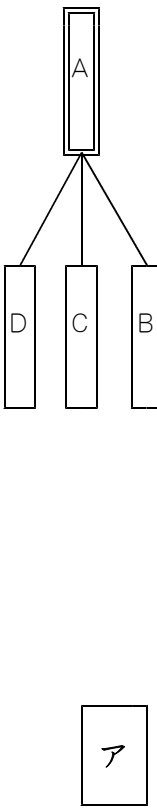
例文② 山田さんのように努力できない人には上達は難しい。

山田さんのように、努力できない人には上達は難しい。

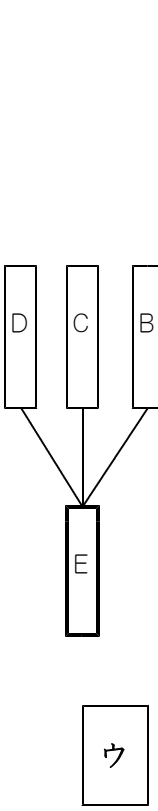
山田さんのように努力できない人には、上達は難しい。

2 次の図に当てはまる「文章の論理構造」を後の文例を参考に、ア、頭括型、イ、双括型、ウ、尾括型から選んで [] に記号で答えなさい。

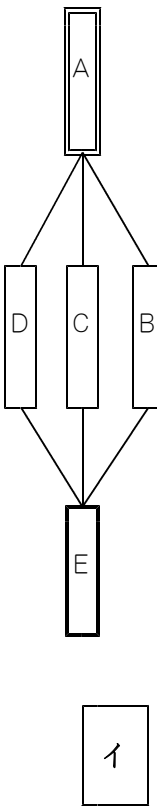
① 初めに主題を示し、次に具体的説明や論証をする。



② 初めに事実や事柄などを述べ、最後にそこから導かれる結論を示す。



③ 初めに主題を示し、説明などを加えてから、再び結論(主題)を示す。



(文例)

A 春は出会いと別れの季節である。
 B 入学式は新しい友達や同級生との出会いが待っている。
 C また、対面式や部活動入部では先輩との出会いもある。
 D しかし、三月には卒業という別れを経験している。
 E だから、三月は悲しみと喜びが複雑に絡み合っているのだ。

3 次の問題に答えなさい。

「先生の教えてくださったことを他山の石としてがんばります。」この言い方には誤りがあります。なぜ誤りなのか分かりやすく説明しなさい。

(例) 他山の石は、他の人の犯した失敗を教訓にすることなので、使い方として間違っている。

4 次のうち傍線部の言葉の使い方が正しいものはどれか。その記号を書きなさい。

ア 幼なじみの彼とはなぜか昔からうまが合った。

イ 迷子の犬が戻ってきたので、彼はほっとして肩を落とした。

ウ 修学旅行の班別活動で、私たちは路頭に迷った。

エ 母は父の意見に反対らしく、しきりにあいづちを打った。

「ア」

5 次の①～③の問いに答えなさい。

① 次の の部分に入れるのに最も適切なものを後から選び、記号で書きなさい。

先日、親しい友人が思わぬ事故に遭った。ただ比較的軽いケガで済んだのは だった。

ア けがの功名 イ 不幸中の幸い ウ 転ばぬ先のつえ

エ 油断大敵 オ 楽は苦の種 苦は楽の種 「イ」

② 「一度してしまったら取り返しがつかない」という意味のことわざとして最も適切なものを、後から選び、記号で答えなさい。

ア 雨降って地固まる イ 身から出たさび

ウ ふくすいぼん 覆水盆に返らず エ 焼け石に水 「ウ」

③ 次のア～エから、A 「つじつまがあわないこと」 B 「本質的には変わらないこと」の意味で用いられるものを、それぞれ答えなさい。

ア 推敲 イ 矛盾 ウ 漁夫の利 エ 五十歩百歩

A 「イ」

B 「エ」

調 ア～エは中国の古い史実や伝説などがもとになって生まれた言葉であるが、このよ
うな言葉を何と言うか、調べてみよう。

16 文法のまとめ あいまいな文・論理構造

組	
番号	
氏名	

1 国語の授業で、明美さんのスピーチを聞き、スピーチの仕方について話し合いました。次の文章を読んで問題に答えなさい。

【明美さんのスピーチ】
本当の優しさには厳しさが必要だ、と私は考えます。単に手を差し伸べるだけではなく、相手にとって何が大切であるかをしっかりと考え、必要があれば心を にするのです。困っている人を助けようとする気持ちは大切ですが、安易に手を貸すことは、かえってその人の成長の機会を奪ってしまうことにもなるのです。例えば、友達に宿題の答えを見せてあげることを考えてみてください。部活動などで忙しい友達に、宿題の答えを見せてあげることは簡単ですが、その友達のためにはなりません、以上から、簡単に手を貸さずにじっと見守る厳しさこそが、真の優しさには必要である、と私は考えます。

《先生》明美さんご苦勞様でした。それでは、意見や感想のある人は話してください。

《Aさん》明美さんが宿題を例にとって話してくれたので、私にはわかりやすく良かったです。

《B君》話の組み立てが になっていたので、

《C君》最初の「本当の優しさには厳しさが必要だ」という言葉に、どきっとしました。「優しさ」とは正反対とも思える「厳しさ」という言葉を使いながら、しかも、「必要だ」と断定的に話している点にたいへん感心しました。

《先生》スピーチの際には、自分の考えを明確に、そして印象深く話す工夫が大事ですね。良い点を見つけてもらったので、今度は、こうするともっと良くなる、というアドバイスはありませんか。

《Dさん》明美さんは、手もとの原稿ばかり見ていました。原稿から目を離して、私たちの方を見て話したならば、もっと良かったと思います。

《先生》そうですね。スピーチは、話し手が一人でするものではないのです。話す速さや間のとり方、声の大きさを工夫したり、身振りを入れたり、表情を豊かにしたりする工夫も大切です。スピーチは「心のキヤッチボール」とも言えますね。常に、話し手は は工夫をすることが大切です。

①

「心を

い

にする」は慣用句です。

い

にあてはまる言葉として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 針

イ 仏

ウ 鬼

エ 無

「ウ

」

②

ろ

には、明美さんのスピーチの組み立ての説明が入りま
す。その説明を簡潔に表したものととして、最も適切なものを、次のア～
エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 根 拠

↓ 意 見

↓ 具 体 例

↓ ま と め

の 順 番

イ 意 見

↓ 具 体 例

↓ 根 拠

↓ ま と め

の 順 番

ウ 具 体 例

↓ 意 見

↓ 根 拠

↓ ま と め

の 順 番

エ 意 見

↓ 根 拠

↓ 具 体 例

↓ ま と め

の 順 番

「エ

」

③

は

に入る適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

分
か
り
や
す
く
話
す

17作文 入試問題に挑戦

組	
番号	
氏名	

1 「責任感について考える」という題で、次に示す〈注意〉にしたがい、文章を書きなさい。

〈注意〉

- ① 題名や氏名は書かないで、すぐ本文から書き始めること。
- ② 二段落構成の文章にすること。
- ③ 第一段落では、責任感の大事さを感じた具体的なできごとや体験などを書くこと。第二段落では、それについてのあなたの意見や感想を書くこと。
- ④ 十行以上、二十行以内(一行20字詰め)の文章にまとめること。
- ⑤ 原稿用紙の正しい使い方にしたがうこと。

● 指示された段落数にしたがって書く

解答例

私は、サッカー部のキャプテンだった。そのため、顧問の先生から部室のカギを渡され、部室の開け閉めを任されていた。しかし僕は、二度、そのカギをなくしてしまった。一度目は、先生がスペアキーを貸してくださったので、部室を開けることができた。カギは後から見つかった。しかし二度目の時には、先生はスペアキーを貸してくださらなかった。先生は「責任感がない」と僕をしかり、よく探すようお願いされた。部室を開けなければ練習はできない。僕がカギを探している間、部員たちは練習ができなかった。

二度目の時に先生がカギを貸してくださいさなかったのは、「責任感」の意味を僕に教えるためだったと思う。僕はこの経験を通して、責任感がなければ他の人に迷惑をかけるということに気づいた。と同時に、責任感がなければ、信頼も失ってしまうと分かった。責任ある行動ができるかどうかは、自分自身に厳しいかどうかの差であるとも感じた。

解説

指示された段落数にしたがって文章を書く場合、すぐに原稿用紙に書かずに、以下のようなポイントに注意して簡単なメモをとってから書くことが大切である。

- 1 指示に合った構成メモを作る。
(例) 題名 自然を守る
第一段落 体験したことなど (具体例)
第二段落 自分の考え (意見)
- 2 与えられた題名に対し、どのような体験・見聞したこと (具体例) が思い浮かぶか、いくつか書き出す。
- 3 その具体例の中から、いちばん書きやすいものの一つを選ぶ。
- 4 その具体例からどのような自分の考えをもったか簡単にメモする。
- 5 段落と段落をどうつなぐか、つなぎの言葉を考える。
(例) 「このことから……」
- 6 最後のまとめの文章を考えてから、文章を書き出す。

2

あなたが日常生活の中で長く使っている物について、その物とあなたとのかかわりや、あなたがその物を使い続けている感想を、百六十〜二百字で書きなさい。

(平成十一年 宮城県公立高校入試問題より)

解答例

僕は中学校入学の時からずっと同じシャーペンシルを使ってきた。この作文もこれを書いている。三年間も使ってきたので分身的ような気もする。このシャーペンシルは、母からの入学祝いなのだ。だから母の愛情がこもっているように感じられる。あちこちに細かい傷があるし、友人の持っているものと比べると形もやや時代遅れではある。しかし、僕はこれからの高校生活でもこのシャーペンシルを使うつもりでいる。

解説

- 1 取り上げる物は一つに絞る。
- 2 自分が愛着をもっている物、思い出がある物、何かの記念になっている物などを取り上げるとよい。
- 3 取り上げた物と自分とのかかわりを具体的に書く。(いつごろから使っているのか、自分にとってどんな意味のある物か、なぜ使い続けているのか、どんな気持ちで使っているか、など)
- 4 過去のことばかりでなく、現在のことやこれからのことなども書くようにする。

18 作文 案内文を書く

組
番号
氏名

◇ 第一中学校では、生徒会主催の地域清掃活動を行う予定です。次は、生徒会が作成している【案内文A】と【案内文B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【案内文A】（地域の方々に向けて作成しているもの）

平成 22 年 4 月 20 日

第一中学校生徒会

地域の皆様

地域清掃活動のお願い

春風のさわやかな季節になりました。皆様、いかがお過ごしですか。

さて、第一中学校では、第二小学校にも呼びかけて、下記のとおり、地区清掃を行います。

ご多用のことと思いますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1.	ア	5月16日（日）午前8時から午前10時
2.	イ	第二小学校及び第一中学校周辺
3.	内 容	ゴミ拾いや草取り
4.	その他	第一中学校正門前にお集まりください。 清掃用具は、当日お配りします。 雨天の場合は中止にします。

1 ア と イ には、【案内文A】、次のページ【案内文B】とも同じ項目名が入ります。それぞれ漢字二字で書きなさい。

ア の正答 . . . 「日時」のように解答しているもの。

イ の正答 . . . 「場所」のように解答しているもの。

【案内文B】(第二小学校の5・6年生に向けて作成しているもの)

平成22年4月20日

第二小学校5・6年生のみなさん

第一中学校生徒会

ちいきせいそう
地域清掃活動のお願い

新学期が始まって2週間がたちました。みなさん、元気が
がんばっていますか。

さて、第一中学校では、次のとおり、第二小学校のみなさん
といっしょに地域のそうじをしたいと思います。

-
1. **ア** 5月16日(日)午前8時から午前10時
 2. **イ** 第二小学校及び第一中学校周辺
 3. ない **内** よう **容** ゴミ拾いや草取り
 4. その他 第一中学校正門前に集まってください。
そうじ用具は、当日配ります。
雨がふった場合は中止にします。

2

【案内文B】は、小学生に向けて書いて書いています。【案内文A】を参考にし
て、に入る一文を書きなさい。

◇ 正答について

正答例

- ・(用事もあると思いますが、ぜひ参加をお願いします。)
- ・(ぜひ参加をお願いします。)

条件

- ①小学生に向けた公的な文章として、適切な表現で書いている。
- ②【案内文A】の内容を参考にし、【案内文B】の文体で書いている。
- ③一文で書いている。

(平成二十二年度 全国学力・学習状況調査より)

正答率	
宮城県平均	
<input type="checkbox"/> 1	ア 69.6%
	イ 94.7%
<input type="checkbox"/> 2	69.6%
全国平均	
<input type="checkbox"/> 1	ア 69.8%
	イ 93.5%
<input type="checkbox"/> 2	60.9%

18 意見文を推敲する

組	
番号	
氏名	

1 中学校の国語の授業で、「情報化社会を生きる私たちに必要なこと」というテーマの意見文を書いています。目標は、「構成を工夫して、自分の意見を明確に述べること」です。今日の授業では、ほぼ完成した意見文をグループ内で読んで話し合い、それを参考にして自分の意見文を推敲することになりました。次の文章は、同じグループの小森さんと村上さんが書いた意見文です。これらを読んで、問いに答えなさい。

【小森さんの意見文】

- ① 現代は、メールが普及し、便利になっている。昔に比べると、気軽に素早くメッセージをやりとりできる時代になった。しかし、私たちは、こうした伝達手段によって、お互いに深く理解し合っていると考えるだろうか。逆に不十分なメッセージによって、誤解が生まれるようなことさえあるのではないだろうか。
- ② 先日、友達からこんな話を聞いた。ちょっとしたことでもけんかをしてしまった仲の良い友達から「もう終わりにしようよ。」と書かれたメールが届いたのだそうだ。けんかをするのはもう終わりにして、また仲良くしようという意味なのか、もう友達づきあいは終わりにしようという意味なのか、悩んだと言っていた。
- ③ 手軽なメールは、確かに便利である。しかし、そのためにお互いに直接会って話し合うようなコミュニケーションが軽視されるのでは意味がないと思う。

【村上さんの意見文】

情報があふれている社会で私たちに必要なものは、必要な情報を選択する力と、情報の正しさを判断する力だと思う。この二つの力がなければ、私たちは、情報に流されてしまうのではないだろうか。私には、一年生の時に失敗してしまった経験がある。夏休みの自由研究で「絶滅のおそれがある野生生物」というテーマのレポートを作成し、提出した。ところが、参考にしたインターネットのホームページの内容が正しいかどうか疑問だという指摘を先生からいただいたのだ。私は、改めてホームページを確かめてみた。すると、五年前から一度も更新されていないものや地球上の一部の地域のことしか取り上げていないものがあった。情報を何も考えずに受け入れてしまうことは、とても危険である。情報をうのみにせず、本当に必要なものを選び、正しく判断できる力こそ私たちに求められているものなのだ。

(1) 小森さんは「村上さんの意見文」を読んで、自分の意見文の書き出しに次の一文を書き加えることにしました。

情報化社会と呼ばれる現代だからこそ、お互いに顔を合わせてのコミュニケーションを大切にすることが必要だ。

このことから、小森さんが村上さんの意見文をどのように評価したことが分かりますか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

■ 正答は、「4」

【村上さんの意見】の書き出しでは、結論に当たる「情報があふれている社会では私たちに必要なもの」について明確に述べている。小森さんが「自分の意見文の書き出し」に書き加えようとしている一文も結論に当たるものになっている。このことから、選択肢「4」を正答とする。

(2) 村上さんは「小森さんの意見文」を読んで、内容ごとに段落を分けている点が良いと思いました。そこで、小森さんの書き方を参考に段落を分けることにします。次の文章は、そのことを説明したものです。あとの1から4のうち、アからカの組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、文章を完成させなさい。

○ 【小森さんの意見文】の三つの段落は、

ア 「問題提起」、「まとめ」、「具体例」

イ 「問題提起」、「具体例」、「まとめ」

の順に分けられている。

○ これにならうと、「村上さんの意見文」は、

ウ 「私には、一年生の時に」

エ 「私は、改めて」

の前と

オ 「情報を何も考えずに」

カ 「情報をうのみにせず」

の前で改行して、三つの段落に分けると良い。

■ 正答は、「3」

【小森さんの意見文】は①段落ではメールという伝達手段によってお互いを深く理解し合っているかという問題を提起し、②段落では具体例として友達から聞いた話を紹介し、③段落では問題を再度挙げて、意見をまとめている。これにならうと、【村上さんの意見文】では、第二段落は、一年生の時の体験を述べた「私には、一年生の時に」の前、第三段落は、体験を根拠に意見をまとめた「情報を何も考えずに」の前で改行すると良い。このことから、選択肢3を正答とする。

19 文学的な文章を読む

組	
番号	
氏名	

◇ 次の文章は、明治時代に書かれた「吾輩は猫である」の一部です。
これを読んで、問いに答えなさい。

「ここまでのあらずじ」吾輩は猫である。名前はまだない。笹原の中に捨てられた吾輩は、食べ物求めて忍び込んだある家に住み着くようになった。教師をしているその家の主人には様々な客があり、吾輩は、人間とは思議なものだと思いなながら、主人や来客の姿を観察している。

こう暑くては猫といえどもやりきれない。皮を脱いで、肉を脱いで骨だけで涼みたいものだといギリスのシドニー・スミスとかいう人が苦しがつたという話があるが、たとい骨だけにならなくともいいから、せめてこの淡灰色の斑入りの毛衣だけはちょっと洗い張りでもするか、もしくは当分のうち質にでも入れたいような気がする。人間から見たら猫などは年が年じゅう同じ顔をして、春夏秋冬一枚看板で押し通す、至って単純な無事な銭のかからない生涯を送っているように思われるかもしれないが、いくら猫だって相応に暑さ寒さの感じはある。たまには行水の一度ぐらいあびたくないこともないが、なにしろこの毛衣の上から湯を使った日にはかわかすのが容易なことでないから汗臭いのを我慢してこの年になるまで銭湯のれんをくぐったことはない。おりおりは団扇うちわでも使ってみようという気も起こらぬではないが、とにかく握ることができないのだからしかたがない。それを思うと人間はぜいたくなものだ。生で食ってしかるべきものをわざわざ煮てみたり焼いてみたり、酢に漬けてみたり、味噌みそをつけてみたり好んでよけいな手数をかけてお互いに恐悦おそしている。着物だってそうだ。猫のように一年じゅう同じ物を着通せというのは、不完全に生まれついた彼らにとって、ちと無理かもしれないが、なにもあんなに雑多なものを皮膚の上へ載せて暮らさなくてものことだ。羊の御厄介ごやくわいになったり、蚕のお世話さなのおせわになったり、綿畑のお情けさえ受けるに至ってはぜいたくは無能の結果だと断言してもいいくらいだ。 (夏目漱石「吾輩は猫である」による。)

(注1) シドニー・スミスはイギリスの著作家

(注2) たといはたとえ。

(注3) 斑入りはまだら模様。

(注4) 洗い張りは洗濯してしわを伸ばすこと。

(注5) 質にでも入れたいは質屋にでも預けたい。

(注6) 年が年じゅうは一年中。

(注7) 一枚看板はここでは、一枚しかない衣服のこと。

(注8) 恐悦はひどく喜ぶこと。

(注9) 暮らさなくてものことだは暮らさなくてもすむことだ。

1 棒線部「羊の御厄介になったり、蚕のお世話になったり、綿畑のお情けさえ受け
る」とありますが、この部分は、人間が何をどうすることを表したのですか。
十字以内で書きなさい。

正答例 「衣服を着ること」(七字)
〔服を着ること〕(六字)

2 山田さんと中川さんは、この文章で面白いと感じた点について話し合っています。
次は、二人が【注目した表現】と【話し合いの一部】です。【話し合いの一部】で
山田さんは、「③と④には、共通した面白さがあるよね。」と発言しています。あな
たは、③と④には、どのような共通した面白さがあると考えますか。あなたの考え
を、【注目した表現】③と【注目した表現】④には、「」に続けて、三十字以上、五
十字以内で書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたり
してもかまいません。

【注目した表現】

①皮を脱いで、肉を脱いで骨だけで涼み
たいものだといギリスのシドニー・スミ
スとかいう人が苦しがつたという話がある

②淡灰色の斑入りの毛衣だけはちよっ
と洗い張りでもするか、もしくはは当分の
うち質にでも入れたいような気がする

③生で食ってしかるべきものをわざわざ
煮てみたり、焼いてみたり、酢に漬け
てみたり、味噌をつけてみたり好んでよ
けいな手数をかけてお互いに恐悦して
いる

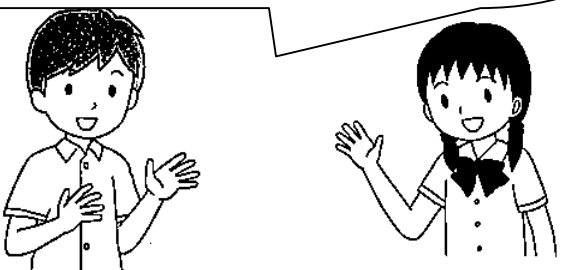
④なにもあんなに雑多なものを皮膚の
上へ載せて暮らさなくてもいいのだ

【話し合いの一部】

山田 ①は猫なもの
物知りで、人間でも
あまり知らないよ
うなことを知って
いるところが面白
い。

中川 ②は、できる
はずのないことを、
その気になればで
きるかのように語
っているところが
面白いと思う。

山田 ③と④には、
共通した面白さが
あるよね。



正答について

正答は、次の二つの条件を満たして解答しているものです。

- ①【注目した表現】③と【注目した表現】④に共通した面白さを適切に書いている。
- ②三十文字以上、五十字以内で書いている。

条件

【注目した表現】③と【注目した表現】④の二つの表現に共通した面白さをとらえるためには、ともに猫の眼から描いているということに加えて、人間の眼からみると当然である食事や衣服について、批判的な見方をしている、独創的なとらえ方をしている、大げさな表現をしているなど、内容や表現にわたる特徴に気付くことが求められます。その上で、自分の言葉で考えをまとめることが大切です。

正答例

【注目した表現】③と【注目した表現】④には、
↓「どちらも、猫の眼から見た人間の食事や衣服について、とても変わったことのように大げさに描かれている。」(四十九字)

誤答について

「正答について」に示した二つの条件のいずれか一つでも満たしていないければ誤答とします。

誤答としては、例えば、次のようなものが考えられます。

- ・【注目した表現】③あるいは④の、一方にしか触れていないもの。
- ・本文の一部を引用しただけのもの。

(平成二十二年度 全国学力・学習状況調査 解説資料より)

正 答 率	
宮 城 県 平 均	
1	36.1%
2	63.9%
全 国 平 均	
1	35.5%
2	62.0%